

森 由紀

## 三重大学留学センターの教育活動

留学生が、日本において主たる目的とする研究及び学習活動を達成するためには、日本語及び日本事情に関する理解が求められる場合が多い。専門分野によっては、高度の日本語運用力が前提となることもある。このため、日本語や異文化理解を中心とする留学生対象の指導を段階的かつより効果的に実施する必要性が生じてくる。

留学生センターでは、発足以来、これらに関連する教育システムを一元化・体系化することに重点を置いて任務をすすめてきた。また、大学全体の意思疎通を図るため、留学生センター運営委員会・留学生担当ネットワーク懇談会等を通じて、定期的に各学部とも連絡を取り合ってきた。

留学生センターが実施する外国人留学生に対する日本語教育は大きく分けて、日本語研修コースと全学向け日本語コースにより構成されている。この他、特別補習講座として、年度末に春季の講座が開講され、文字通り補講の役割を果たして来ている。

本学に置いても、年々留学生の多様化がすすみ、日本語教育の対象となる受け入れ身分から見ると、学部正規生・大学院正規生・特別聴講学生・特別研究学生・研究生の他、研究者および外国人の教師をもその対象に含んでいる。それぞれの立場の相違は、単位認定の必要性の有無をめぐってあらわれるが、同じ一つのクラスで机を並べている限りでは、指導をすすめる上での違いはない。また、日本語研修コースへの国費留学生の受け入れ等により、出身国・地域の多様性も急速に進んだ。このため、個々のクラスの履修者数は日本人学生のそれと比較すると当然少ないが、その一方で、カリキュラムについては数多くのメニューを揃えなければならない結果となる。学生の日本語レベルに応じたきめ細かな能力別クラスの編成はもちろんのこと、技能別クラスや漢字圏・非漢字圏の学生を分けて指導する必要性にも迫られている。しかも、人的・物的環境の面から、限られた教員数と教室配当を考慮に入れると、いかに効果的に日本語および日本事情の教育を提供し進めていくかを常に検討し、改善していかざるをえない。

1999年度からは、編成の見直しを経て、さらに新たな体制で取り組みが進められつつある。また、後期には、履修登録カードの手続きの簡素化を図るため、現在検討が重ねられている。